

日本史(21) 平安王朝の形成③「平安仏教／密教芸術」

○今回のポイント

平安時代の仏教は天台宗・真言宗の密教がおこる。
芸術にも影響し、密教芸術が栄える。

【平安仏教】

(1)平安仏教

■奈良仏教の弊害

↓・仏教が政治に深く介入→桓武の[1. 長岡]・[2. 平安]遷都では南都奈良の大寺院は残留

■平安仏教

・[3. 桓武]や[4. 嵯峨]は最澄・空海らの仏教を支持

(2)最澄の天台宗

①受戒をめぐる争い

従来：東大寺戒壇における受戒制度 ⇒ 最澄は新しく独自の[5. 大乘戒壇]の設立を目指す

↓

南都の諸宗から激しい反対 ⇒ 最澄は「6. 顕戒論」で対抗

②天台宗の発展

- ・最澄の死後、大乘戒壇の設立が公認される
- ・[7. 比叡山延暦寺]は仏教教学の中心地。かつ平安京の王城鎮護の寺院とされる。
・浄土教の[8. 源信]や、鎌倉新仏教の開祖たちの多くは比叡山延暦寺で学んでいる。

(3)空海の真言宗

①『9. 三教指帰』(さんごうしいき)…儒教・仏教・道教のなかで仏教の優位を論じる。

②紀伊の[10. 高野山金剛峰寺]で真言宗を開く。

真言は大日如来の真実の言葉の意味。その秘奥なことを指して密教と呼ばれる。
※顕教は釈迦の教えを經典から学び修行して悟りを開こうとする。
※密教は秘密の呪法の伝授・習得により悟りを開こうとする。

③[11. 教王護国寺](東寺) → [12. 嵯峨天皇]から賜る。平安京の都で密教の根本道場となる。

(4)加持祈祷

①天台宗の[13. 密教]化

- ・真言宗の密教を[14. 東密]、天台宗の密教を[15. 台密]と呼ぶようになる。
- ・[16. 円仁]…入唐し密教を学び帰国するまでの苦勞の記録『17. 入唐求法巡礼行記』を記す。円仁の門流は延暦寺に拠って[18. 山門派]と呼ばれる。
- ・[19. 円珍]…入唐中の巡礼紀『20. 行歴記』を記す。[21. 園城寺]を復興したので、門流は園城寺三井寺によって[22. 寺門派]と呼ばれる。

②[23. 加持祈祷]による現世利益の効果が、皇族貴族に受け入れられる！

- ・加持とは加護の意。祈祷は呪文を唱え神仏に祈ること。密教で手に印を結び(印契・いんげい)、鉢(こ)を用いて、口に真言(陀羅尼・だらに)を唱えて、仏力の加護を祈る儀式。これによって除災招福などの現世利益(この世での仏のめぐみ)を期待した。

(5)神仏習合と修験道

①8世紀の神仏習合

- ・神社→境内に[24. 神宮寺]を建てる。
- ・寺院→境内に守護神を[25. 鎮守]として祭り神前で読経。

平安時代ではさらに広まる！

②修験道の源流

天台宗・真言宗 → 奈良仏教とは違い山岳の地に伽藍を営み、山中を修行の場とする。

[26. 山岳信仰]と結びつく！

[27. 修験道]

山伏に見られるように山岳修行により呪力を体得するという実践的な信仰
 奈良県吉野の[28. 大峰山]、北陸の[29. 白山]などが有名

【密教芸術】 天台・真言両宗がさかん → 神秘的な密教芸術が発展

(1)建築…寺院の金堂が山間の地に置いて、以前のような形式にとらわれない伽藍配置でつくられた。

代表例) [30. 室生寺]の伽藍配置:金堂や五重塔など (資 p.82 参照)

(2)彫刻

①密教との関わり

- ・ [31. 如意輪観音]…如意宝珠を持って衆生に救済を与える菩薩。
- ・ [32. 不動明王]…大日如来の使者として悪を断じ、衆生を救う。
- ・ [33. 一木造]で神秘的な表現を持つものが多い。

→ 頭部で東部と胴体が一木の木材で作られている。

観心寺如意輪観音



(3)絵画

- ・神秘的な仏画 → [34. 園城寺不動明王像]
- ・ [35. 曼荼羅] → 密教で重んじる大日如来の知徳を表わす [36. 金剛界] と同じく慈悲を表わす [37. 胎蔵界] の二つの仏教世界を整然とした構図で図化。神護寺や教王護国寺のものが有名。
- ・絵師; [38. 百済河成] → 百済人を始祖とする官人。画技に優れ、平安時代世俗画の展開に力があつた。

(4)書道…唐風の力強い筆蹟を特筆とする唐様

[39. 三筆]

空海[40. 風信帖]

橘逸勢[41. 伊都内親王願文]

嵯峨天皇[42. 光定戒牒]

